

加藤常賢 つとむ 漢學者、文學博士。明治二十七年十月十九日愛知縣中島郡大里村生れ、昭和五十二年八月二日歿（八十四―一九七六）。舊姓早川。號維軒。第八高等學校を経て、大正九年東京帝國大學文學部支那哲學科卒。靜岡高等學校教授、京城帝國大學助教の次ぎ、昭和八年廣島文理科大学教授。二十二年東京大學教授、二十三年一松學舎大學教授（のち學長）。この間日本中國學會理事、斯文會理事長を務め、二十六年には宮中講書如の儀に漢書を注講。

著書に『支那古代家族制度研究』（昭和十五年九月十一日岩波書店）、『禮の起原と其發達』（昭和十八年四月二十日中文館書店）、『漢字の起原』全十九冊（昭和二十四年六月二十五日―四十二年一月二十四日斯文會）等。『維軒加藤常賢一學問とその思い出』（深津胤房編、昭和五十五年八月二日神奈川・加藤がだ刊）がある。

